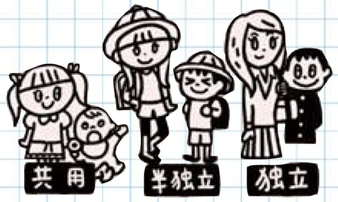
ベスト間取りで子育て上手

子どもの誕生、入園、小学校入学などをきっかけに家を買うなら、5年〜10年後の「子どもの成長」にも対応できる間取り選びが大切だ。子どもの年齢に合った間取り選びのポイントと、成長に合った「子どもスペース」のつくり方をアドバイス。

三井のリフォーム住生活研究所　所長
西田恭子さん（一級建築士）
20余年のリフォーム経験を活かし新聞・雑誌の執筆や講演など幅広く活動。著書『「中古マンション購入×リフォーム」で理想の住まいを手に入れる！（アーク出版）』など

子どもが成長するにつれ必要なスペースは変化する



「子どもの成長は、乳幼児期、小学生期、中学生以降の大きく次の3段階に分けられます。乳幼児期は、リビングと隣の和室などを親子が『共有』して過ごしますが、中学生以降になると『独立』した個室が必要になります。その間の小学生期は、自己管理するスペースと親の目が届くスペースのある『半独立』の状態にしたいですね」（西田さん）。
このように、家の間取りを選ぶときは、成長に合わせて「子どもスペース」を変えられるかどうか考えることが大切だ。

乳幼児期　小学生期　中学生以降

乳幼児期（親子密着期）　生活時間のほとんどを親子一緒に過ごす時期

親の目の届く範囲で安全に暮らしながら、着替えや片付けなど基本的な生活習慣を少しずつ身につけていく時期。

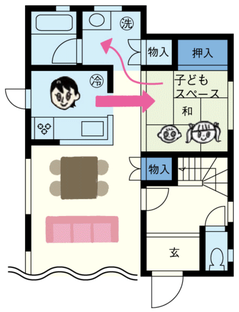
家事をしながら目が届く安全な子どもスペース

乳幼児期の子どもスペースは、家事をしながら目が届く安全な場所が第一条件。おもちゃで散らかることも多いので、リビングなど「大人スペース」から目隠しできることもポイントだ。なお、この時期に家を買うなら、子どもが成長した後の使いやすさもチェック。次ページ以降のポイントやアドバイスを参考に、将来の使い方をイメージして間取りを選ぼう。

間取選びの Check point

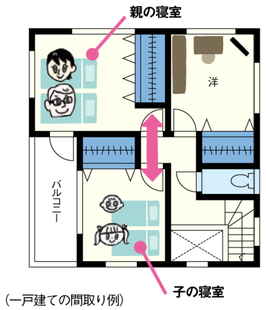
□ 子どもスペースの位置を見よう

キッチンから目が届き、リビングと引き戸などで区切れるか。バスルームやトイレとの動線がスムーズだとさらに便利。



□ 親子の寝室の位置関係

親子4人同室で寝るなら和室は6畳、洋室は9畳以上が理想。別室の場合、子どもの様子が分かる位置関係か。



（一戸建ての間取り例）

小学生期（自立過渡期）　親の助けを借りながら、「自分でやる」を学ぶ時期

親子の会話を通して社会性を学ぶと共に、親の助けを借りつつ、物や時間の管理を自分でやることを身につけていく。

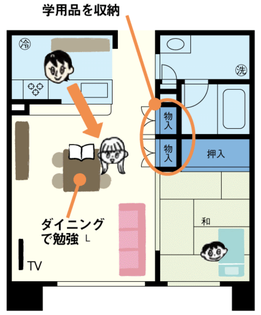
親から近い勉強スペースと半独立の寝室をつくりたい

「小学生くらいまでの勉強スペースは、親の目の届く所がいいですね。分からない所などを聞きながら、自分で勉強する習慣が付くようサポートしましょう」（西田さん）。寝室兼プレイスペースは、独立性を高めにして、自己管理するように仕向けよう。携帯ゲームやスマホなどを与えるなら、使用場所や時間のルールを親子で決めておくことも大切だ。

間取選びの Check point

□ キッチンと勉強スペースの動線

夕食の準備をしつつ勉強を見てやれそうか。学用品の収納場所もあると便利。



□ 寝室兼プレイペースは「半独立」に

子どもの自主性を尊重しつつ、様子も伺える位置関係がベター。この時期は、「きょうだい同室」も選択肢のひとつ。

□ お手伝いしやすいキッチンか

この時期は「お手伝い」も大切。広くて開放的なキッチンなら、親子一緒に作業しやすい。

中学生以降（自立期）　プライバシーを尊重しつつ話しやすい環境も大切に

生活習慣や規範が身に付き、自立に向け歩き始める時期。プライバシーを大切にしつつ、必要なときには話ができる環境を整えたい。

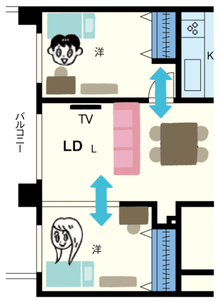
LDKと行き来しやすい「個室」にできるか

「子ども部屋にする個室は、子どもの生活動線と親の生活動線が重なる位置にあるといいですね」（西田さん）。例えば、バスルームや玄関に行くのに必ずLDKを通る「リビングイン」の個室なら、親子の会話の機会も増えそうだ。また、最近は、一室を家族共用の書斎や娯楽室にするなど、子どもが個室にこもらない工夫をする家庭もあるようだ。

間取選びの Check point

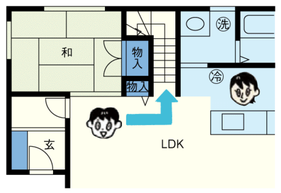
□ LDKと個室の動線を見よう

出入り口がリビングにある洋室は、個室としての独立性があると同時に、LDKから声がかけやすく、お互いの様子が伝わりやすい。

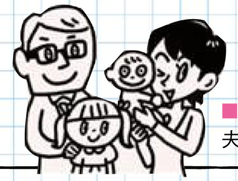


□ リビングに階段がある一戸建て

一戸建ての場合、階段がリビングやキッチンの近くにあると、子どもが学校から帰って来たときの様子が分かるほか、会話もしやすい。



成長に合わせて子どもスペースを チェンジ しよう！



■モデルファミリー
夫&妻　子ども4歳、1歳

子どもが乳幼児の時期に家を買うなら、成長段階に合わせて子どもスペースをどう変えていくか、夫婦で話し合いながら間取り選びをしたいもの。
マンションと一戸建ての一般的な間取りを例に、子ども成長に合わせた間取りの使い方を考えてみよう。

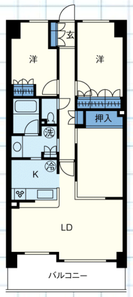
マンション

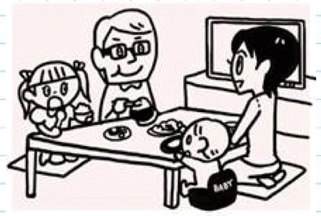
中に居室がある間取りの使い方アイディア

住戸のほぼ中央にキッチンを配し、その横に居室がある間取りの場合、乳幼児期から中学生以降までこの部屋を子どもスペースに利用できる。なお、3LDKで一部屋が和室の間取りを選ぶときは、子どもが小学生以上になったとき、和室をどう使うのか考えておこう。

■基本の間取り

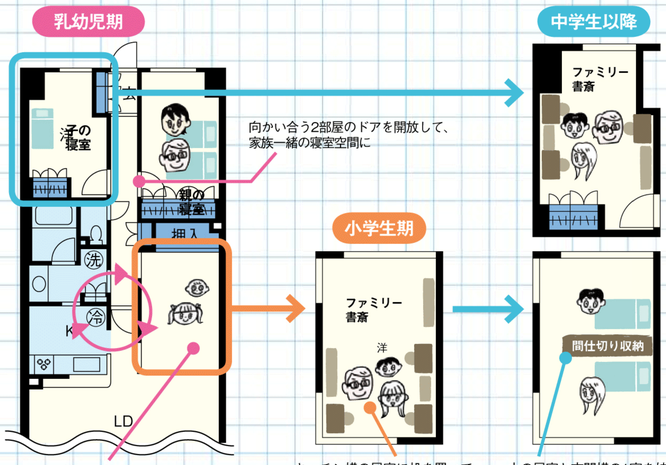
間取り／3LDK
専有面積／約75㎡





ゴロ寝スペース、客間、ダイニング代わりなど、和室はフレキシブルな使い方ができる

PATTERN 1 中の居室と玄関横の１室を子どもスペースに



向かい合う2部屋のドアを開放して、家族一緒の寝室空間に

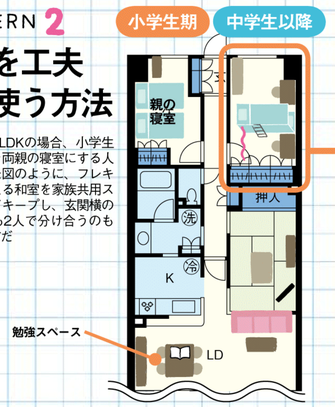
キッチン横の居室を子どもスペースに。リビング側とキッチン側に引き戸があれば、家事をしながら子どもの様子に目が配れる

キッチン横の居室に机を置いて、子どもの勉強スペースに。親のパソコンなどもここに置いてファミリー書斎にするアイディアも

中の居室と玄関横の1室を姉と弟の個室にするのが一般的。ファミリー書斎を続けるなら1部屋を2つの寝室に区切る方法も（上図）

PATTERN 2 和室を工夫して使う方法

和室がある3LDKの場合、小学生以降は和室を両親の寝室にする人が多い。また図のように、フレキシブルに使える和室を家族共用スペースとしてキープし、玄関横の１室を子ども2人で分け合うのも一つの考え方だ



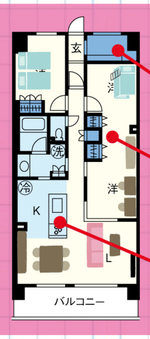
■こんなのもあるよ！

間仕切り家具の中には、右図のような2段ベッドタイプのものもある

リフォームで もっと使いやすく！

子どもスペースをつくりやすい間取りにリフォームする

子どもの成長に合ったスペースづくりをするなら、中古を買ってリフォームするのも方法のひとつ。「水回りが一カ所に固まっている間取りだと、比較的大きなリフォームをせずに居室部分の変更ができます。また、中にはリフォームの範囲に制限がある物件もあるので、計画している変更ができるのか、事前に確認しておきましょう」（西田さん）



西田さんの Reform Idea

1. **玄関横に大型収納を確保**
玄関の横の一角を仕切って棚を取り付け大型収納に。アウトドアやスポーツ好きな家庭向き
2. **2つの居室を1つにする**
玄関横と中の居室を1つにし、小学生期は勉強部屋と寝室に。中学生以降は間仕切り家具を置き2人の個室として利用できる
3. **キッチンをアイランド型に**
開放的なアイランドキッチンは、家族みんなで作業しやすい

■リフォームOK？ ここでチェック

- ☐ **マンションの「構造」を確認**
「ラーメン構造」の梁や柱の出っ張りは削れない。また「壁式構造」は、住戸内の壁でも外せない部分があるので注意。
- ☐ **「PS」の位置は動かせない**
間取図に「PS（パイプシャフト）」と書かれた部分など、住戸内でも位置変更できない場所があるので事前に確認を。
- ☐ **管理組合のルールもチェック**
使用するフローリングの種類や電気やガスの容量などについて、管理組合でルールを定めている場合がある。

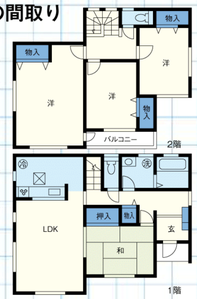
一戸建て

1階にＬＤＫ、2階に居室 一般的な間取り活用術

「1階にLDK、2階に居室」という間取りは、2階を子ども部屋にするのが一般的。「そのままではお互いの様子が伝わりにくいので、2階にも家族が集まれるスペースをつくるといいですね。また、LDKに吹き抜けのある間取なら1階と2階につながりができます」（西田さん）

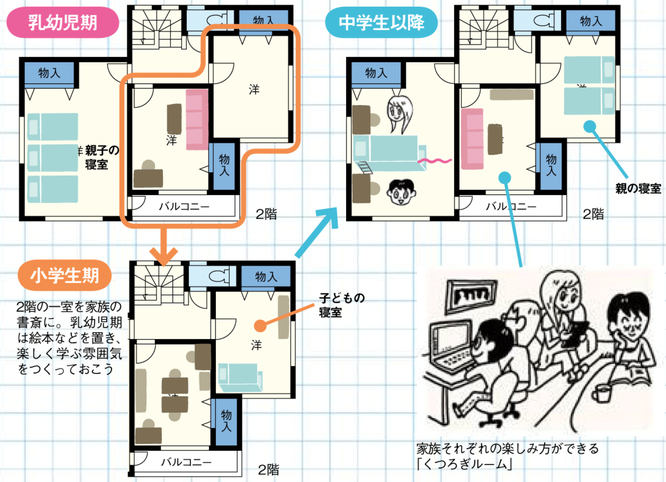
■基本の間取り

間取り／４ＬＤＫ
専有面積／約110㎡



子ども部屋をつくるとき、「ゲームはリビングで」などといったルール決めも大切だ

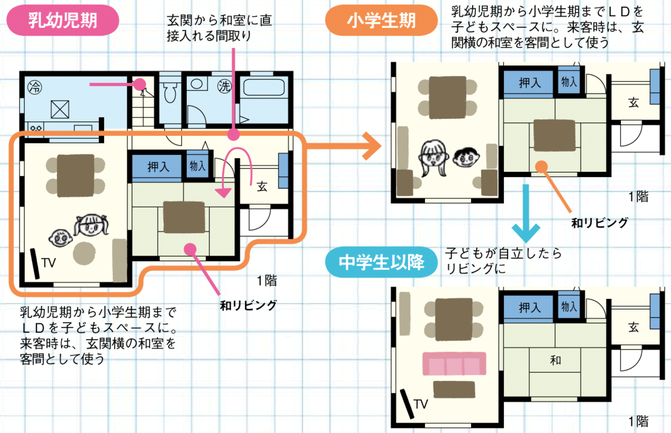
PATTERN 1 2階の一室を家族が集まるスペースに



2階の一室を家族の書斎に。乳幼児期は絵本などを置き、楽しく学ぶ雰囲気をつくっておこう

家族それぞれの楽しみ方ができる「くつろぎルーム」

PATTERN 2 小学生まではＬＤＫを子どもスペースに



玄関から和室に直接入れる間取り

乳幼児期から小学生期までＬＤを子どもスペースに。来客時は、玄関横の和室を客間として使う

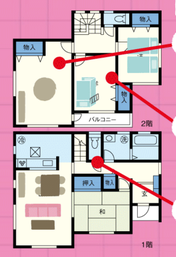
乳幼児期から小学生期までＬＤを子どもスペースに。来客時は、玄関横の和室を客間として使う

子どもが自立したらリビングに

リフォームで もっと使いやすく！

2階にミニキッチンをつくりファミリースペースを楽しく

「2階にリフォームで小さな炊事場をつくり、電気ポットなどを置けば立派なミニキッチンに。手軽にティータイムがとれて過ごしやすくなります。また、一戸建ては、リビングを吹き抜けにするなど大規模なリフォームも可能です」（西田さん）。ただし、中には増改築や建て替えに制限がある物件も。購入前にリフォームができる範囲を確認しておこう。



西田さんの Reform Idea

1. **2階に炊事場をつくる**
気軽にお茶やコーヒーが飲めるほか、寝る前の歯磨きなども2階でできるので便利
2. **子と親の寝室をつなぐ**
寝室の間を引き戸にする。乳幼児期には子どもの様子が分かり安心。成長後は家具でふさぐ
3. **リビングイン階段にする**
リビングの隣に階段がある場合は、壁の位置を変えるだけでリビングイン階段になることも

将来の使い方も考えて間取を選ぼう

間取図は、「子どもが成長したときにどんな使い方ができそうか」、夫婦で話合いながらチェックしよう。将来、子どもと何をして楽しみたいか、また、どんな風に勉強させるかなど、お互いの子育て方針をこの機にすり合わせておけば、家を買った後の絆も強くなるはずだ。

構成・取材・文／　デザイン／桜田もも　イラスト／　マップ制作／アトリエプラン　撮影／

※記事の感想をお寄せください。抽選でギフトカード1万円分当たります。詳しくは巻末を